

2025年度業務実績報告書

提出日 2026 年 1 月 14 日

1. 職名・氏名 准教授・渡邊浩一

2. 学位 学位 人間・環境学、専門分野 哲学、授与機関 京都大学、授与年 2011 年

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習			
①担当科目名（単位数）	配当年次		
哲学（2単位）	1	前後期各1コマ	
②内容・ねらい 哲学について特段の予備知識がなく、また今後専攻するわけでもない（とくに1・2年次）の各学部学生を対象に、古代から現代の西洋の哲学者たちの学的な自己表現に学びつつ、参加者がそれぞれ自らの世界観・人生観を言語化できるようになることを目標とした授業を試みている。			
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 講義は原典（翻訳）引用に準拠し、それぞれの哲学者の問いに即して参加者間で意見交換する時間を設けている。同時に詩・対話篇・討論・エッセイなど哲学者ごとのさまざまな表現スタイルにもフォーカスし、期末レポートで「2～14回目の授業で扱った哲学者の哲学スタイルを参考に、自分の思想・世界観を自由に表現すること」という課題を（選択肢として）出すことで、学生の自己表現を促している。			
①担当科目名（単位数）	配当年次		
倫理学（2単位）	1	前後期各1コマ	
②内容・ねらい 学生がそれぞれ自身の持ち合わせている価値観・規範意識への気づきを得ることができるよう、アリストテレス以来の倫理学の基礎理論と現代社会のさまざまな問題を順次とりあげながら、毎回参加者がモラル・ジレンマに直面するような各種課題を提示し、究極的には「よく生きる」ことの意義の受け取り直しに資するよう、教室空間・課題・全体の内容を構成している。			
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 内容面では倫理学の基礎理論と現代社会の諸問題をバランスよく配置するよう心がけている。学生が自ら考えずにはいられないような問い・課題を提示するとともに、その取り組み内容を参加者へのフィードバックに留意している。			
①担当科目名（単位数）	配当年次		
西洋思想（2単位）	1	前後期各1コマ	
②内容・ねらい 自由人の学芸（リベラルアーツ）は、西洋の大学の基礎教育課程を成すものであり、内容面では「自由」を根幹とする西洋の人間観・学問観をよく体現するものと言えるが、言葉として用いられるほど実際には知られていない。そこでこの授業では、古典的リベラルアーツの理念・カリキュラムの内実を有力なテキストに即してつぶさに確認することを試みている。			
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 スライドと資料に即した説明を学生がそれぞれ工夫してノートテイクすることを課題として位置づけた。説明に際して中心となるのは自由七科のテキストであるが、その社会的・歴史的ふくらみを体感できるよう、視聴覚資料も可能な限り併用することを心がけている。			

ハイフレックス形式で実施。			
①担当科目名	(単位数)	配当年次	
導入ゼミナール	(2単位)	1	前期2コマ
②内容・ねらい 新カリキュラムでは共通シラバスによる。担当クラスのサブテーマは「たのしい作文？」で、前年度の取り組みを踏襲してライティングに焦点化した授業を行った。読み手を意識した文章作成ができるようになること、また最終的に論文の「型」を身につけることがねらいである。			
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 1クラス20名で、2コマ連続。一般教育科目全般について、より少ない人数でより多くの学生に対応するようにとの大学の方針をうけて、作文課題の添削等を通じて可能な範囲で個々の学生の状況を把握するとともに、ペア／グループワーク等を通じて学生間の交流の推進に努めた。			
①担当科目名	(単位数)	配当年次	
教養ゼミナール	(2単位)	1	後期2コマ
②内容・ねらい 新カリキュラムで経済学部必修となったことを踏まえて、前年度までと内容を変更した。「読書会の教室」と題して、①人文学分野の名著に触れ、その内容・体験を他者に説明できる、②テキストを自分なりに咀嚼し、感じ・考えたことを表現できる、③テキストに即して他者と意見交換し、自分の考えを更新できる、の三点を到達目標に設定した。			
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 いわゆるグレートブックスの中から、序盤は教員指定で『ニコマコス倫理学』と『君主論』を読んだ。中盤は学生自身の選択により『神曲』、後半はリスト外から日本のベストセラー小説等を、さまざまなワークも交えつつ読書会形式で読み進めた。			
(2)その他の教育活動			
他大学出講 ・ 福井工業大学 哲学入門（前期・後期） 4/10～1/22（予定）			

4. 研究業績

(1)研究業績の公表	
①著書 吉田文・濱中淳子・渡邊浩一『専門書を読む——教員と学生でつくる 10 講座——』、ミネルヴァ書房 2025 年 4 月【担当：共編著、範囲：第 2 講、61-82 頁、ブックガイド、247-254 頁、鼎談、255-264 頁】	【1 本】
②学術論文（査読あり）	【0 本】
③その他論文（査読なし）	【0 本】
④学会発表等	【0 件】
⑤その他の公表実績 田中一孝、平山朋子、羽倉尚人、斎藤有吾、 <u>渡邊浩一</u> 「高等教育における生成 AI 導入の深化——科目から分野・機関レベルへの展開——」、『大学教育学会誌』47(2)、180-185、2025 年 11 月	【1 本】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績	
(3)特許等取得	
(4)学会活動等	

5. 地域・社会貢献活動

①-4

国立病院機構 あわら病院 臨床研究審査委員会委員

日時 2025 年 3 月 13 日、6 月 19 日、8 月 21 日、10 月 16 日、12 月 18 日

③

NPO 法人 ふくい School of Liberal Arts 理事

・「高校生のための人文学入門」(2 月 11 日) 運営

・「高校生のための社会科学入門」(7 月 12 日) 運営

・高校生・市民向け哲学講座「哲学やろっさ」(3 月 22 日、6 月 14 日、11 月 23 日) 企画・運営

⑦

福井県立藤島高等学校教養テキスト第 0 集編集委員 (SSH)

日時 2025 年 2 月 2 日、3 月 20 日／場所 藤島高校

6. 大学運営への参画

(1)補職

(2)委員会・チーム活動

[全学]

教育研究委員会委員

(3)学内行事への参加

(4)その他、自発的活動など